

ムスリム文化学習の教材構成に向けた予備調査： 日本人学生を対象とした文化アシミレーター試作版への反応

中野祥子・田中共子

1. はじめに

2008年に「留学生30万人計画（文部科学省, 2008）」が策定されて以降、在日留学生の数は増加している。その数は、平成26年5月1日の時点で184,155人にのぼり、日本の大学においてもグローバル化が進んでいる（日本学生支援機構, 2015）。大学のいたるところで出身国や民族、宗教など、多様な文化背景を持つ留学生との異文化交流が行われている。特に、近年はイスラム教を信仰する留学生の増加が注目されている（岸田, 2011）。日本にいるイスラム教徒（以下、ムスリムと呼ぶ）の留学生数を測った統計はないが、在日留学生の出身地をみると、イスラム教を主な宗教とする国からの留学生は8千人弱在籍している（日本学生支援機構, 2015）。それらの国出身の留学生の全てがムスリムとは限らず、また、イスラム教がマジョリティーの国出身の、ムスリム留学生の存在もあるかもしれないが、多数のムスリムの学生が日本に留学していることが推測できる。日本の大学において、彼らはいまや身近な存在となっており、ムスリム文化への理解と対応が必要になってきている。

ムスリムには、守るべき宗教上の制約や行動規範がある。その中で、日常生活に密に関わる決まり事としてしばしば挙げられるのは、食の制限（アルコール、豚肉及びイスラム教で定められた方法で処理されていない肉の飲食の禁止）や礼拝習慣、断食の実施、露出の制限等である。このような特有の価値観や行動様式を持つ彼らは、日本人との交流において、異文化性に基づく困難を感じているという（Nakano, Okunishi & Tanaka, 2015）。そして、彼らが感じている困難には、ムスリムに馴染みの薄い日本人に対して、自分たちのことを理解してもらうことの難しさが含まれていた。例えば、戒律に則った行動について質問されたり、宗教的な実践を行えるように交渉したりする際に、日本人に理解してもらえるように説明することの難しさが報告されている。また、ムスリムについて多少知っていたとしても、人によって戒律への解釈や向き合い方が異なることまでは知らない日本人がおり、ムスリムに対して固定化されたイメージを持って、接してくることも困難の一つであるという。留学生である彼らが日本語で十分な説明を行うことは、容易なことではない。そのため、ホストの側の我々が彼らの宗教規範を含めた文化的特性を理解していくことが求められるだろう。

ホストである日本人学生は、イスラム教に関する基本的な教えや戒律について、地理や世界史などの講義、テレビや書物を通して、知っている場合もある。しかし、これらの宗教規範を含む文化的特性が、日常で日本人と交流する上でどのような誤解やすれ違いを生むのかという点につい

ては、想定が及びにくいという（中野・田中, 2015）。そのため、実際の交流場面を想定した実践的な形式で文化的な知識を学ばせることが望ましい。加えて、在日ムスリム留学生の価値観や行動は、出身国の文化規範やパーソナリティー、宗教規範という複数の要素に影響を受けているため、宗教規範に基づく文化的特徴の把握だけでは足りないであろう。つまり、文化的差異に基づくトラブルが起きたときに、トラブルの原因について、個人の性格、その場の状況、出身国の文化的特徴、宗教規範の違い等、様々な可能性を思い浮かべ、いかに柔軟な発想で対応していくかが大事になってくるだろう。

異文化間のトラブル時における原因を柔軟に捉える訓練をする文化学習の教材には、カルチャー・アシミレーター（以下、文化アシミレーターと呼ぶ）というものがある。文化アシミレーターの教材は、文化摩擦を題材にした具体的なトラブルのエピソードを記述した教示文と、その原因を問う質問、その質問に対応する、トラブルの原因についての4つ選択肢、及びその解説から成る（Fiedler, Mitchell & Triandis, 1971）。学習者は、まず、文化差に起因するトラブルのエピソードを読み、次に、そのトラブルが起こった原因を推測して選択肢の中から選ぶ。トラブルの原因についての4つの選択肢は、それぞれ異なる解釈に基づいているため、選択肢を選ぶ過程で原因帰属を柔軟にしていく訓練ができる（三角, 1997）。この方法で、ムスリムと日本人との交流場面を題材にしたエピソードを使えば、馴染みの薄いムスリムとの実際の交流場面を想定した、実践的な文化学習と原因帰属を柔軟にしていく訓練が行えるだろう。しかしながら、ムスリム留学生の宗教規範に基づく価値観や行動の差異に焦点を当てた文化アシミレーターは僅少である（大橋・近藤・秦・堀江・横田, 1992）。ムスリム文化学習に特化した文化アシミレーターの作成の余地がある。

2. 本研究の目的

我々は、日本人学生向けのムスリム文化アシミレーターに関する一連の研究を進めている（例えば、中野・田中, 2015）。本稿で報告するのは、ムスリム文化学習の教材構成に向けた、予備調査にあたる部分である。具体的には、学習対象者として想定される日本人大学生を対象に、試作した課題への回答を求め、その回答の傾向や回答後の反応から課題の妥当性と教育的効果への示唆を探る。

今回検討するのは、以下の6点である；1) 選択肢に対する回答は、どのように分散または集中するか。2) 回答者は、選択の過程で何を考え、どのような理由でその選択肢を選ぶのか。3) 課題で用いたエピソードは、学習の題材として適切か。4) 選択肢は、原因帰属を柔軟にしていく際のアイテムという観点からみて適切か。5) 回答に取り組むことから、何を学んだと感じるか。6) 課題の難易度は適切か。7) 教育場面での活用の際の留意点や教材としての改善点は何か。

回答者である日本人学生には2種類の集団を設け、本研究は二部構成とした。研究1では、日本の大学に通う日本人大学生を対象として、その反応を分析する。彼らは本教材による学習の、主な

対象者と考えられる。研究2では、ムスリムが9割以上を占めるというインドネシアに留学している日本人学生を対象にして、その反応を分析する。ムスリムとの交流経験が多くはない集団と、すでに豊富な対象の反応をみることで、社会文化的な知識と経験が与える影響を把握できる。つまりインドネシアに留学し、日常的にムスリムとの交流を持つ日本人学生の反応を合わせて探ることによって、より豊富な知識を持つ者の視点から今回の課題の妥当性を評価してもらうことができる。またこの課題がムスリムとの接触経験者にも教育的な示唆を与えるのかどうかを、発展的に探ることもできよう。これらの知見をあわせて、本研究において試作したムスリム文化アシミレーターが、どのような対象にどのような学びをもたらすのか、幅広い視点から示唆を得たい。

3. 研究1

3. 1 目的

日本人学生向けのムスリム文化アシミレーターを試作し、日本の大学に通う日本人学生に回答を依頼する。その回答の傾向や回答後の反応から、ムスリム文化学習の教材作りへの示唆を探る。

3. 2 方法

3. 2. 1 調査協力者

2014年12月、西日本にある国立〇大学の日本人学部生にサークルや講義で、試作した文化アシミレーターへの解答を依頼した。質問紙の配布と収集には留め置き法を用いた。回収した143名の回答のうち、不備があったものを除いた135名分を分析の対象とした。内訳は、性別は男性67名、女性68名、学籍は文系68名、理系67名であった。海外への留学経験を持つ者が32名いた。また、ムスリムとの交流経験を持つ者が7名いた。うち5名は、ムスリム学生とプライベートでの付き合いはないが、共に講義を受けた経験があり、会話をしたことがあるという程度の関わりを持っていた。残りの2名は、行動を共にしたことはないが、顔見知りで挨拶をする程度の関わりを持っていた。ムスリムと全く関わったことがない者は128名いた。研究の趣旨とプライバシーの確保について説明した上で調査協力を依頼し、承諾を得た。

3. 2. 2 材料

2014年12月に、Nakano et al. (2015) をもとに、ムスリム留学生と日本人学生との交流時に誤解が生じやすい場面を5つ設定し（場面1：お菓子、場面2：信仰度合いの違い、場面3：写真、場面4：断食、場面5：ビンゴゲーム）、それぞれ教示文と4つの選択肢を付した文化アシミレーターを試作した。加えて、回答後に渡すための、文化アシミレーターの題材についての解説文も用意した。文化アシミレーターの教示文及び、選択肢と解説の要点を表1に示す。なお、各場面の見出しは本論文の読者にむけて便宜的に付けたものであり、回答者には見せていない。場面を解釈する選択肢には、パーソナリティーへの帰属、母国との文化差への帰属、正確な知識に基づく宗教規範の差への帰属、誤った知識に基づいた宗教規範の差への帰属、の合計4つの視点を含めた。当て

はまると思う選択肢と選択の理由、および回答の感想を求めた。質問紙の回収後、課題場面に關わるムスリム文化の解説を渡した。これらのアシミレーターと解説は、ムスリム留学生3名と協議して、内容と表現に誤りがないように留意した。彼らの出身地域はアジア2名、中東1名の3ヶ国で、語学力については日本語能力試験N1が1名、N2が2名であった。

表1 使用したムスリム文化アシミレーターと解説の概要

【場面1 お菓子】	
課題場面	研究室の打ち上げでパーティーをすることになりました。同じ研究室のサウジアラビア人留学生のAさんはイスラム教徒で、宗教上お酒や豚肉の飲食ができないというので、ソフトドリンクとお菓子を持ち寄って食べることにしました。ポテトチップスやチョコレート、ゼリーなど、美味しそうなお菓子がたくさん集まりました。パーティーが始まって、みんな好きなお菓子を食べながらのんびりと楽しそうに過ごしています。しかしながらAさんは、何も食べようとはしません。あなたが“おいしいよ”と勧めても、“結構です”と困ったような表情で断ってきます。Aさんはなぜ何も食べようとしなかったのでしょうか。
選択肢	① お菓子パーティーだと聞いたのでパーティーの前に夕食を食べてきたため、お腹がいっぱいだったら ② イスラム教では、お菓子も食べてはいけなくて決められているから ③ <u>コンソメやゼラチン、バターや乳化剤の中には動物由来のものが含まれている可能性があり食べられないから</u> ④ お菓子ばかりをたくさん食べるというパーティーに馴染みがなく、抵抗があるから
解説	<宗教上禁止されている成分が含まれている食品は意外にもたくさんある> 選択肢②の内容は誤り。イスラム教ではアルコールや豚肉、一定の儀式に則って処理されていない肉の飲食を禁じられている。日本で売られているお菓子には、ゼラチンやコンソメ、乳化剤等、教義で禁じられている成分を含んでいることが多々ある。
【場面2 信仰度合いの違い】	
課題場面	研究室のメンバーで、大学の近くの居酒屋で新年会をすることになりました。幹事をするようになったあなたは、出欠をとりました。すると、インドネシア人留学生のBさんが“私はイスラム教徒なのでお酒が飲みませんので、居酒屋での新年会には参加できません”と言いました。あなたは、あれ？と思いました。なぜなら、あなたの研究室にはBさんの他にCさんとDさんの2人のイスラム教徒の学生がいるのですが、二人とも新年会に参加すると言ったからです。あなたは同じイスラム教徒なのにどうしてBさんだけが新年会に参加しないのか不思議に思いました。なぜCさんとDさんは参加するのに、Bさんだけが新年会の参加を断ったのでしょうか。
選択肢	① Bさんは、その日、他に用事があったから ② <u>同じイスラム教徒でも、ソフトドリンクを飲みながら飲み会に参加する人や、お酒の匂いやお酒に酔っている人を見るもの嫌だという人など、人によって飲み会への参加の判断が異なるから</u> ③ Bさんは、新年会などの、お酒を使って親睦を深める場に興味がなかったから ④ イスラム教では、親睦を深めることを目的としたパーティーの場合は、禁酒を休んでもよいと認められているため、C、Dさんは新年会を親睦会だと捉えて参加したが、Bさんは親睦の場であるとは思っていなかったから
解説	<同じイスラム教徒でも、人によって信仰の度合いや規律の守り方は異なる> イスラムの教義ではお酒を禁じられているが、④の内容は誤り。イスラム教では、信者が守るべきことがコーランに書かれているが、それをどこまで守るかは、個人の考え方によって異なる。
【場面3 写真】	
課題場面	ある日、サークルの女子メンバーで、マレーシア人留学生のEさんのアパートの部屋で女子会を開くことになりました。皆で料理を持ち寄って食べたり、話をしたりして楽しみました。Eさんの部屋で行った女子会では、レストランなどの外のお店でやるのとは違って、時間や人目を気にせず軽装でくつろげるので大変好評でした。とても楽しかったので、“みんなで記念に写真を撮ってfacebookにアップしよう！”と言って、食卓を囲んで記念撮影をすることになりました。そのとき、Eさんがあわてた様子で“私はやめておきます”と言って、抜けてしまいました。Eさんがあわてた様子で写真に写らないと言ったのはなぜでしょうか。
選択肢	① Eさんはイスラム教徒で、写真には日本の肉料理が写るため、写真を見た人に宗教上食べてはいけないものを食べたのではないかと勘違いされてしまうことを心配したから ② 留学中は遊ばずに勉強するよう親から言われていたため、女子会の写真を親や家族に見られなくなかったから ③ <u>Eさんはイスラム教徒で、いつもは頭にヒジャブというスカーフをかぶっているが、自宅での女子会だったためスカーフを外した経歴になっており、その姿で写った写真をfacebookを通して男性に見られては困ると思ったから</u> ④ Eさんは女子会につきあいはしたが、あまり羽目を外すことが好きではなかったから
解説	<露出の制限はあるが、状況によって身だしなみを調整している> イスラム教では身だしなみに関して制限があるため、女性は家の外ではスカーフを着用して頭髪を隠しているが、家族の前や同性的の前ではスカーフを外しても問題ない。しかし、スカーフを外した姿で写真に写り、異性に見られることは懸念される。

(表1 つづき)

【場面4 断食】	
課題場面	あなたは、同じサークルのインドネシア人留学生のFさんと一緒に、頻繁に食事をとります。その中で、イスラム教徒であるFさんに、宗教上問題なく食べられる日本の料理を紹介するのが楽しみのひとつです。ある日、いつものようにFさんを誘ったのですが、“他の皆さんと行ってください”と断られました。気を取り直して、翌日も誘ってみました。また断られてしまいました。しばらくあけて、一週間後にもう一度誘ってみました。また断られてしまいました。Fさんと友達になってから2ヶ月程たちますが、もう2週間ほど昼食をともにしていません。Fさんを含めたサークルのメンバーで、放課後のサークルを終えた後に皆でうどんを食べに行くことになった時は来たのに、あなたとの昼食の誘いは断られます。Fさんがあなたとの昼食を断るようになったのはなぜでしょうか。
選択肢	① Fさんはあなたのことが好きではなくなったため、距離をおきたくなったから ② イスラム教では可能な限り昼食を食べない方が良いとされていたのに、Fさんは日本に来てから頻繁に昼食を食べていることを他のイスラム教徒の人に指摘されたから ③ Fさんはずっと言い出せなかったが、本当は日本の料理が口に合わなかったから ④ <u>イスラム教では年に一度、日中に断食をする月があり、ちょうどその月に誘ったから</u>
解説	<年に1度、1ヶ月間の断食習慣がある> イスラム教では、神の恵みに感謝するために、年に一度一ヶ月間、日が昇る間は断食を行うことが定められている。なお、断食をする時期は太陽暦に基づいて決められており、一定ではない。
【場面5 断食】	
課題場面	サークルで新入生を歓迎する会を開くことになりました。新入生であるイラン人留学生のGさんは、イスラム教徒なので、飲めないものや食べられないものがあるそうです。そこで今回は飲み会や食事をやめて、参加費として一人500円ずつ出し合い、景品を買って新入生歓迎ビンゴゲーム大会をすることにしました。1等賞は日本海産地直送のお魚セットです。その他には、文房具やお菓子の詰め合わせなど、5等まで景品が準備されました。その説明を聞いて、みんな1等を狙って、わくわくしながらビンゴゲームが始まるのを待ちました。そのとき、イラン人留学生のGさんが、“やっぱり私はこの会には参加しません”と言い出しました。なぜGさんは急に参加しないと言い出したのでしょうか。
選択肢	① 自分のせいで歓迎会が飲食なしのビンゴゲーム大会になったのだと責任を感じているため、自分が参加しなければ皆が好きな物を食べられると思ったから ② 新入生を歓迎する会なのに、新入生の自分も参加費を払って、皆でビンゴゲームをするのはおかしいと思ったから ③ ビンゴの景品である魚類の中には、イスラム教で禁じられているマグロやカツオ等の赤身魚が含まれているから ④ <u>イスラム教ではくじや賭け事が禁止されており、ビンゴゲームもそれに値すると思ったから</u>
解説	<くじや賭け事、それに値することは禁止されている> 選択肢③の内容は誤り。サメなどの肉食の魚でない限り、魚類は食べてもよい。イスラム教では賭けごとや宝くじ、銀行の利子のような、努力をしないで利益を生む行為は禁止されている。今回の事例は、500円の会費で景品を買い、その景品が500円よりも高額で全員にあたる訳ではないという点が、賭け事やくじに値すると解釈される可能性がある。なお、その解釈は時と場合、個人の考え方によっても異なる。

※表1の太字下線箇所は、正確な知識に基づく宗教規範の差への帰属を表した選択肢を示す。

3. 2. 3 測定

回答者の反応を詳細に知るため、文化アシミレーターを回答した際に、特定の選択肢を選んだ理由を記述してもらった。また、文化アシミレーターの回答の後に、文章完成法を用いてムスリムの印象とムスリムとの付き合いの心構えを尋ねた。“イスラム教徒は__”、“イスラム教徒の留学生とうまくつき合うには__”という文章を示して下線部に記述を求め、それぞれ3つまで回答できるようにした。最後に文化アシミレーターの感想を尋ねる意図から、アシミレーターの難易度や新たに学んだこと、回答をして初めての感想について自由記述を求めた。

3. 2. 4 分析

文化アシミレーターの回答については、各場面における回答を集計して分布を確認した。回答の理由及び全体を通しての感想についての自由記述と、文章完成法を用いたムスリムへの印象及び付き合いのコツについての記述は、KJ法(川喜田, 1967)を用いて、類似した内容をまとめ、整理していった。

3. 3 結果と考察

3. 3. 1 ムスリム文化アシミレーターの場合面1における回答の分布と選択の理由

文化アシミレーターの場合面1における回答の分布を表2に示し、選択の理由を表3に示す。文章中の丸数字は選択肢を示す。

表2 ムスリム文化アシミレーターの場合面1（お菓子）における回答の分布

選択肢	回答者数	(%)
①	2	(1.5)
②	5	(3.7)
③	114	(84.4)
④	14	(10.4)

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

表3 ムスリム文化アシミレーターの場合面1（お菓子）における選択の理由

選択肢	選択の理由	回答者数	割合
①	習慣が異なるから	1	50.0 %
	遠慮したから	1	50.0 %
②	宗教上の決まりだから	3	60.0 %
	消去法	1	20.0 %
	日本の食べ物に馴染みがないから	1	20.0 %
	宗教上の決まりだから	54	47.4 %
③	消去法	23	20.2 %
	見たことや聞いたことがある	16	14.0 %
	成分を確認してないから信用できない	9	7.9 %
	無回答	5	4.4 %
	「困ったような表情」をしているから	4	3.5 %
	直感	2	1.8 %
	なんとなくイスラム教徒についてのクイズだと思ったから	1	0.9 %
	お菓子パーティーをする文化に馴染みがないから	9	64.3 %
	お菓子自体に不信感があるから	2	14.3 %
	平和に考えたいから	1	7.1 %
④	無回答	1	7.1 %
	直感	1	7.1 %

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

3. 3. 2 文化アシミレーターの場合面2における回答の分布と選択の理由

文化アシミレーターの場合面2における回答の割合を表4に、選択の理由を表5に示す。文章中の丸数字は選択肢を示す。

表4 文化アシミレーターの場合面2（信仰度合いの違い）における回答の分布

選択肢	回答者数	(%)
①	2	(1.5)
②	98	(72.6)
③	6	(4.4)
④	29	(21.5)

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

表5 文化アシミレーターの場面2（信仰度合いの違い）における選択の理由

選択肢	選択の理由	回答者数	割合
①	都合が合えば行くと思うから	1	50.0 %
	忙しかったから	1	50.0 %
②	出身国や個人によって信仰との向き合い方は異なるから	62	63.3 %
	消去法	8	8.2 %
	直感	7	7.1 %
	無回答	5	5.1 %
	宗教に関係なく、飲み会への参加の判断は異なる	4	4.1 %
	見たことや聞いたことがあるから	3	3.1 %
	お酒が嫌いだから	2	2.0 %
	ムスリムは酒が飲めないから	2	2.0 %
	人それぞれ時間とお金の使い方が違うから	1	1.0 %
	自分ならこう思うから	1	1.0 %
	行ったら迷惑をかけると思ったから	1	1.0 %
	飲み会に興味がないから	2	33.3 %
	様々な価値観があるから	1	16.7 %
	消去法	1	16.7 %
③	これが断り文句だから	1	16.7 %
	飲まなければ場の雰囲気に馴染めないと思ったから	1	16.7 %
	信仰の度合いが異なるから	6	20.7 %
	無回答	6	20.7 %
④	個人で捉え方が異なると思うから	6	20.7 %
	どうしてもお酒を飲みたいくないから	3	10.3 %
	直感	2	6.9 %
	他の二人の方が日本文化に染まっている	2	6.9 %
	消去法	2	6.9 %
	他の二人が参加することを知らなかったから	1	3.4 %
	親睦とは名ばかりでお酒を飲むことが主題だと思ったから	1	3.4 %

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

選択された割合が最も多かったのは、②の正しい知識に基づく原因帰属を示した選択肢であった。回答の理由を見てみると、6割は選択肢に示される解釈に同意して選んでいると推察されるが、消去法や直感で答えていると考えられる者が1割いた。続いて、2割の回答者が、④を選択肢し、誤った知識に基づいた原因帰属を行っていた。しかし、選択の理由には、個人で信仰の度合いが異なるという、場面2の事例における解釈の要点を押さえた記述が多数見られた。このことから、宗教規範の違いに目を付けているものの、正しい帰属には至っていないことがうかがえる。知識の内容に誤りがあるものの、②と④を選んだ8割以上の回答者は、宗教に基づく文化的差異にトランスラブルの原因を想定していることがわかる。僅かではあるが、①や③の個人的な理由に帰属した者も見られた。

3. 3. 3 文化アシミレーターの場面3における回答の分布と選択の理由

文化アシミレーターの場面3における回答の分布を表6に示し、選択の理由を表7に示す。文章中の丸数字は選択肢を示す。

表6 文化アシミレーターの場面3（写真）における回答の分布

選択肢	回答者数	(%)
①	28	(20.7)
②	7	(5.2)
③	92	(68.1)
④	8	(5.9)

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

表7 文化アシミレーターの場面3（写真）における選択の理由

選択肢	選択の理由	回答者数	割合
①	誤解を受けたくないから	12	42.9 %
	宗教上好ましくないから	5	17.9 %
	見たことや聞いた事があるから	3	10.7 %
	無回答	3	10.7 %
	お肉を食べているのを見られなくなかったから	2	7.1 %
	消去法	2	7.1 %
②	ずっと食事のことが問題になっているから	1	3.6 %
	無回答	2	28.6 %
	家族に誤解されたくないから	1	14.3 %
	個人的な理由だと思うから	1	14.3 %
	真面目だから	1	14.3 %
	見たことや聞いた事があったから	1	14.3 %
③	消去法	1	14.3 %
	宗教的な決まりだから	23	25.0 %
	異性に頭髪を見せたくないから	21	22.8 %
	消去法	15	16.3 %
	見たことや聞いたことがあるから	10	10.9 %
	無回答	6	6.5 %
④	気を抜いているところを見られなくなかったから	6	6.5 %
	ムスリムのイメージがあるから	4	4.3 %
	社会的地位が下がる事を防ぎたいから	3	3.3 %
	直感	2	2.2 %
	男女格差があるから	1	1.1 %
	個人が特定されてしまうから	1	1.1 %
④	個人情報に他人に見られるのが嫌だから	6	7.5 %
	肉を食べたりスカーフを外したりして羽目を外したから	1	12.5 %
	言い訳しなかったから	1	12.5 %

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

7割弱の回答者が弱の③の宗教の正しい知識に基づく文化差にトラブルの原因を帰属していた。理由を見ると、「宗教的な決まりだから」という曖昧な理由が最多であったが、次いで、「異性に頭髪を見せたくないから」という、教義に基づいた正しい解釈が行われていた。消去法で答えた者も多数いた。2番目に多く選択されたのは、①のイスラムの教えに基づいた食の制約に関する知識を用いた解釈を示す選択肢であった。選択の理由を見ると、「食の制約について見たことや聞いたことがある」、「宗教上好ましくないから」などの記述が見られ、回答者にとって、ムスリム留学生とのトラブルと、食にまつわる戒律が結びつきやすいことが示唆された。宗教規範の差異に基づいて作成した①と③の選択肢を選んだ者が大半を占めたことから、宗教に基づく文化的差異への帰属には想定が及ぶものの、戒律のどの部分がどのような場面ですれ違いや困難に発展するのかについては推測しにくいことがわかる。僅かであるが、②の「親の目を気にしたから」、①の「羽目を

はずしたくなかったから」といった、個人的な理由にトラブルの原因を帰属する選択肢を選んだ者もいた。

3. 3. 4 文化アシミレーターの場面4における回答の分布と選択の理由

文化アシミレーターの場面4における回答の分布を表8に示し、選択の理由を表9に示す。文章中の丸数字は選択肢を示す。

表8 文化アシミレーターの場面4（断食）における回答の分布

選択肢	回答者数	(%)
①	16	(11.9)
②	6	(4.4)
③	13	(9.6)
<u>④</u>	<u>100</u>	<u>(74.1)</u>

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

表9 文化アシミレーターの場面4（断食）における選択の理由

選択肢	選択の理由	回答者数	割合
①	理由を言わなかったから	6	37.5 %
	消去法	3	18.8 %
	ありがた迷惑だと感じていたから	2	12.5 %
	無回答	2	12.5 %
	あなたのことが嫌いになったから	1	6.3 %
	あなたがしつこいから	1	6.3 %
②	そもそも友達になりたくなかったから	1	6.3 %
	もしそういう習慣があるなら納得できるから	3	50.0 %
	無回答	2	33.3 %
③	直感	1	16.7 %
	ずっと言い出せなかったが限界がきたから	5	38.5 %
	消去法	4	30.8 %
	日本食が嫌いなのにあまりに何回も誘ってくる	2	15.4 %
	無回答	1	7.7 %
	ご飯を食べたくないときもあると思うから	1	7.7 %
<u>④</u>	見たことや聞いたことがあるから	30	30.0 %
	宗教上の決まりだから	22	22.0 %
	無回答	13	13.0 %
	これなら納得できるから	10	10.0 %
	消去法	9	9.0 %
	2週間も断るのはおかしいから	6	6.0 %
	特別な事情があるように思えたから	6	6.0 %
	直感	2	2.0 %
	タイミングが合わなかったただけだと思うから	1	1.0 %
	迷惑をかけたくなかったから	1	1.0 %

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

最も多くの回答者に選ばれた選択肢は④であるが、これはイスラムの教義に基づく文化的差異に原因を帰属した選択肢であった。選択した理由で最も多かったのは、「断食について聞いたことや、断食をしているムスリムを見たことがある」といった記述で、次いで、断食習慣は教義に基づく行為であることの認識を示した記述であった。このことから、ムスリムの断食習慣に関する知識は、大半の回答者が持ち合わせていたことがうかがえる。その他には、「消去法」や、「この理由

なら納得できる」、「特別な事情があるように思えたから」といった記述が見られ、当人同士の関係性の問題なのか、個人的な好みの問題なのか、食文化の違いの問題なのかなど、それぞれ異なった視点でトラブルの原因を解釈していること、そして選択肢を取捨選択していく過程で、異文化接触時のトラブルの原因帰属の仕方が柔軟になっていることがうかがえる。続いて、1割程度であるが、①の相手に対する好意の有無に帰属する選択肢が選ばれていた。選択の理由として最も多かったのは「Fさんが昼食を断る理由を言わなかったから」という記述であり、他には、「ありがた迷惑だと思っていた」、「しつこいから」といった、ネガティブな表現が見られた。これらの記述から、文化的差異が背景にあっても、本人から十分な理由の説明がなされない場合、今後の関係性に影響を与えかねないようなネガティブな解釈をしてしまう可能性が示唆される。加えて、トラブルの原因を推測するための予備知識や十分な手がかり、自分の想定外の理由があるかもしれないという思考の柔軟さを十分に持ち合わせない場合は、誤解を生んでしまう可能性も考えられるだろう。続いて、③の「日本料理が口に合わなかったから」という食文化の差異に原因を帰属した選択肢を選んだ者が1割程度を占めた。

3. 3. 5 文化アシミレーターの場面5における回答の分布と選択の理由

文化アシミレーターの場面5における回答の分布を表10に、選択の理由を表11に示す。文章中の丸数字は選択肢を示す。

表10 文化アシミレーターの場面5（ビンゴゲーム）における回答の分布

選択肢	回答者数	(%)
①	15	(11.1)
②	4	(3.0)
③	34	(25.2)
<u>④</u>	<u>82</u>	<u>(60.7)</u>

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

場面5は、今回の5つの題材の中で、最も回答にばらつきが見られたものである。回答者の6割を選んだのは、④の正しい知識に基づく宗教規範の差に帰属する選択肢であり、半数以上が正しい知識に基づいて原因帰属を行っているといえる。しかし選択の理由を見ると、「直感で答えた」や「そのような決まりがありそうだから」、「消去法」が上位を占めており、賭けごとの禁止に関する戒律についてはあまり知られていないことがうかがえる。次に多く選ばれた選択肢は③であるが、これは誤った知識に基づく宗教規範の差に原因を帰属させたものであった。選択の理由を見ると、「イスラム教は食べ物に関する戒律が厳しい」や「景品の食べ物に問題がありそう」という記述があり、イスラム教は食の制限が多いという印象から、教義の食の制限にトラブルの原因があると推測していることがわかる。③と④の選択肢は宗教規範の差に基づく選択肢であるが、8割以上の回答者がこの2つの選択肢を選んでいて、このことから、大半の者が宗教に基づく文化差に想定が及んでいるが、その内容までは検討がつきにくいらしいことがうかがえる。また、1割の回答

表11 文化アシミレーターの場面5（ビンゴゲーム）における選択の理由

選択肢	選択の理由	回答者数	割合
①	気を遣ったから	7	46.7 %
	自分ならそう思うから	2	13.3 %
	消去法	2	13.3 %
	無回答	2	13.3 %
	真面目だから	1	6.7 %
	自分はイスラム教のことは知らないから	1	6.7 %
②	性格がひねくれているから	2	50.0 %
	無回答	2	50.0 %
③	イスラム教は食べ物の戒律が厳しいから	9	26.5 %
	景品に問題がありそうだから	7	20.6 %
	無回答	7	20.6 %
	消去法	4	11.8 %
	ビンゴゲームを始める直前に断ったから	3	8.8 %
	直感	2	5.9 %
	魚アレルギーだったから	1	2.9 %
	国によってそういう決まりがあるから	1	2.9 %
④	直感	20	24.4 %
	そのような決まりがありそうだから	14	17.1 %
	消去法	13	15.9 %
	無回答	11	13.4 %
	宗教上の決まりだから	11	13.4 %
	見たことや聞いたことがあるから	7	8.5 %
	説明を聞いた後に断ったから	5	6.1 %
	判断基準は人それぞれだから	1	1.2 %

丸数字は選択肢を示し、太字とアンダーラインで示した選択肢は、正確な知識に基づく文化差への帰属を表現した選択肢を示している。

者が、①の個人的な感情に基づく選択肢を選んでいった。選択の理由として「周りに気を遣ったから」、「自分ならそう思うから」といった、自分の視点で相手の気持ちを推測した記述がみられた。

3. 3. 6 ムスリムの印象に関する記述

ムスリムへの印象に関するコメントは1人平均1.96 ($SD=0.58$)、合計265件得られた。内容は6つのカテゴリーにまとめられた(表12)。

最多は、戒律が厳しいことや教えに対して従順であるという印象からくる〈信仰への忠実さ〉であった。そして、お酒や豚肉の禁止など、食の制約や断食、露出の制限を中心とした〈戒律の内容〉、次いで、戒律の遵守や日本で生活することの大変さの危惧、1日5回の礼拝習慣から連想される時間感覚の厳しさや、食の制約から連想される栄養の偏り及び楽しい食事の我慢といった印象から成る〈ネガティブな印象〉が見られた。なお、類似したコメントが1つも見当たらなかった記述はまとめて「その他」とした。次いで、ムスリムとの接点のなさや、ムスリムについてよくわからないという認識を示した〈異質な存在〉、真面目や大らかなど、肯定的な人柄の印象を示した〈ポジティブな印象〉、ムスリムの所在地域等の情報を挙げた〈存在の認識〉と続き、ムスリムへの印象が多岐に渡っていることがわかる。イスラム教の戒律から連想される記述が中心であり、文化アシミレーター直後の反応として、戒律の多さや、戒律の内容が印象に残っており、それらが記述に反映された可能性が考えられる。

表12 ムスリムについての印象に関する記述

カテゴリー名	コメント数	割合	カテゴリー名	コメント数	割合
＜異文化の理解と尊重＞	136	49.8 %	＜配慮＞	53	19.4 %
・相手の宗教を理解する	119		・飲食をする際に気を遣う	15	
・互いの宗教や文化を尊重する	12		・こちらの宗教観を押し付けけない	13	
・相手に日本の文化を知ってもらう	3		・事前に宗教的ニーズを確認する	13	
・イスラム教に改宗してみる	2		・賭け事をしない	2	
			・一緒に肉を食べない	2	
＜文化一般的な交流のコツ＞	61	22.3 %	・一緒に酒を飲まない	2	
・コミュニケーションを積極的にとる	14		・イスラム教の文化やしきたりを守る	2	
・思いやりを持って接する	13		・一緒に断食する	2	
・一緒に過ごす機会を持つ	3		・お揃いのスカーフを試してみる	2	
・言葉遣いに気をつける	3				
・相手の出身国に行ってみる	3		＜原因偏見の柔軟化＞	16	5.9 %
・広い心を持つ	2		・固定観念にとらわれない	10	
・英語力をつける	2		・様々な価値観の可能性を考える	2	
・我慢が必要	2		・相手の断りを拒絶の意味に捉えない	2	
・適度な距離感を保つ	2		・宗教規範が異なる可能性を考える	2	
・自分の宗教や文化との共通点を見つける	2				
・困難があっても挫けない	2		＜宗教にこだわらない接し方＞	7	
・ジェスチャーを磨く	2		・宗教的制約に対して過剰に気を遣わない	3	
・自分の意見を言う	2		・宗教の話をあまり持ち出さない	2	
・同じ趣味をもつ	2		・一人の人間として接する	2	
・笑顔で心がける	2				
・困難の理由をちゃんと聞く	2				
・その他	3				

割合は総コメント数に対する割合を示す。

3. 3. 7 ムスリムとうまくつき合うコツに関する記述

ムスリムとの付き合いのコツに関するコメントは1人平均2.02 ($SD=0.51$)、合計273件得られた。内容は5つのカテゴリーにまとめられた(表13)。

最多は、〈異文化理解と尊重〉であり、中でもイスラム教について理解することの大切さを示す記述が最も多く、互いの宗教や文化を理解し、尊重することを付き合いの心構えとして示していた。続いて、コミュニケーションを積極的にとることや、思いやりを持って接すること等から成る〈文化一般的な交流のコツ〉、彼らの宗教的ニーズに合わせた対応の実行を示す〈配慮〉、固定観

表13 ムスリムとうまくつき合うコツに関する記述

カテゴリー名	コメント数	割合	カテゴリー名	コメント数	割合
＜異文化の理解と尊重＞	136	49.8 %	＜配慮＞	53	19.4 %
・相手の宗教を理解する	119		・飲食をする際に気を遣う	15	
・互いの宗教や文化を尊重する	12		・こちらの宗教観を押し付けけない	13	
・相手に日本の文化を知ってもらう	3		・事前に宗教的ニーズを確認する	13	
・イスラム教に改宗してみる	2		・賭け事をしない	2	
			・一緒に肉を食べない	2	
＜文化一般的な交流のコツ＞	61	22.3 %	・一緒に酒を飲まない	2	
・コミュニケーションを積極的にとる	14		・イスラム教の文化やしきたりを守る	2	
・思いやりを持って接する	13		・一緒に断食する	2	
・一緒に過ごす機会を持つ	3		・お揃いのスカーフを試してみる	2	
・言葉遣いに気をつける	3				
・相手の出身国に行ってみる	3		＜原因偏見の柔軟化＞	16	5.9 %
・広い心を持つ	2		・固定観念にとらわれない	10	
・英語力をつける	2		・様々な価値観の可能性を考える	2	
・我慢が必要	2		・相手の断りを拒絶の意味に捉えない	2	
・適度な距離感を保つ	2		・宗教規範が異なる可能性を考える	2	
・自分の宗教や文化との共通点を見つける	2				
・困難があっても挫けない	2		＜宗教にこだわらない接し方＞	7	
・ジェスチャーを磨く	2		・宗教的制約に対して過剰に気を遣わない	3	
・自分の意見を言う	2		・宗教の話をあまり持ち出さない	2	
・同じ趣味をもつ	2		・一人の人間として接する	2	
・笑顔で心がける	2				
・困難の理由をちゃんと聞く	2				
・その他	3				

割合は総コメント数に対する割合を示す。

念にとらわれないことや、様々な価値観があることを想定に入れるなどの心構えを示した〈原因帰属の柔軟化〉が見られた。このような記述は、文化アシミレーターの学習効果として期待される内容であり、回答者は文化アシミレーターの回答を通して、異文化性に基づく困難の原因帰属を行う際に柔軟な発想で解釈していくことの有用性を感じているといえよう。僅かではあるが、戒律に対して過剰に気を遣わないことや、一人の人間として接するといった〈宗教にこだわらない接し方〉に関する記述もみられた。

3. 3. 8 ムスリム文化アシミレーターを回答した感想

文化アシミレーターを回答した感想を分析した結果、コメントは1人平均1.88 ($SD=0.49$)、合計254件得られ、7つのカテゴリーにまとめられた(表14)。

表14 ムスリム文化アシミレーターを回答した感想

カテゴリー名	コメント数	割合	カテゴリー名	コメント数	割合
＜回答の難しさ＞	89	35.0 %	＜知識不足や曖昧さへの気づき＞	26	10.2 %
・難しかった	70		・自分の知識が曖昧であると気がついた	13	
・全く分からなかった	10		・イスラム教についての知識があまりないと気がついた	7	
・消去法で答えた	5		・制約の細かいところまではわかっていなかった	5	
・直感で答えた	3		・知識の再確認できた	1	
・4択の中に自分の答えと一致するものがなかった	1				
＜ムスリムへの理解と意欲＞	55	21.7 %	＜柔軟な思考＞	20	7.9 %
・イスラム教は厳格な宗教だと思った	24		・いろんな可能性を考えるのに頭を使った	7	
・ムスリムは日本で生活するのが大変そう	11		・宗教上の理由が主だと思ったが、惑わされる問題もある	4	
・もっとイスラム教徒について勉強した方が良かったと思った	5		・選択肢があったので4つのパターンを考えられた	3	
・宗教を理解した上で付き合うことが大事だ	5		・異文化交流には文化や性格だけでなく宗教への配慮も	3	
・どの選択肢が正しいのか興味がある	2		・宗教は違うが同じ人間として共通する部分もある	2	
・ムスリムと実際に交流してみたい	2		・イスラム教に関する問題ばかりで偏りを感じた	1	
・宗教のことを考える機会になってよかった	2				
・他の宗教への理解は大変だと思った	3		＜回答の手応え＞	18	7.1 %
・何もかも宗教に絡めて考えるのもよくない	1		・聞いたことがあるもの、知っているものがあつた	16	
			・身内に1人でも詳しい人がいれば意外とわかる	2	
＜新しい知識の獲得＞	45	17.7 %	＜思い込み＞	1	0.4 %
・くじや賭け事が禁止されていることを知った	10		・全ての理由が宗教によるものだと思い込んで回答した	1	
・赤身魚が禁止されていることを知った	6				
・禁酒にも例外があることを知った	6				
・飲食に関する制約が多いということを知った	5				
・制約がいろいろあるということを知った	5				
・お菓子の成分にまで配慮しなければならないことを知った	4				
・ムスリムの被り物の名前を初めて知った	3				
・飲食以外にも禁止事項があるということを知った	2				
・お酒を飲んではいけないことを初めて知った	2				
・断食の習慣があることを初めて知った	1				
・ムスリム同士でも信仰の度合いが異なることを知った	1				

割合は、総コメント数に対する割合を示す。

最多は、文化アシミレーターの難易度に関する記述であり、「難しい」、「全くわからなかった」といった〈回答の難しさ〉がまとめられた。3割以上の者が、今回の文化アシミレーターの内容を難しいと感じていることがわかる。次いで、「イスラム教は厳格な宗教だ」、「日本で生活するのが大変そう」といった印象や、「ムスリムの文化について勉強した方が良い」、「宗教を理解した上で付き合うべきだ」、「ムスリム留学生と実際に交流してみたい」といった記述から成る〈ムスリムへの理解と意欲〉がみられた。文化アシミレーターの事例を通して、ムスリム留学生の文化的特性や異文化性に基づく困難の内容を把握したことで、ムスリムが日本で生活していくことの難しさに共感したり、危惧したりしていたといえる。さらに、ムスリム文化を理解することの大切さに気づき、実際に交流してみたいという意欲も芽生えていた。3つめのカテゴリーとして、

「ムスリムの教義について初めて知った」等の記述から成る〈新しい知識の獲得〉がみられた。記述の詳細をみると、くじや賭け事の禁止は、本研究の対象者にとって特に馴染みの薄い内容であったことがうかがえた。なお、「赤身魚を食べることが禁止されていることを初めて知った」や「禁酒にも例があることを初めて知った」という記述が多数みられたが、赤身魚を食べる事の禁止及び、禁酒の例外については、誤った知識である。本研究では、正確な知識に基づく宗教規範の差への帰属を示した選択肢の他に、誤った知識に基づいた宗教規範の差への帰属を示した選択肢を含めておいた。今回は、文化アシミレーターの事例と選択肢についての解説書を渡す前に感想を記入させたため、この時点では、間違った選択肢の情報を、新知識として、誤って認識してしまっている者がいる。今回は、質問紙の回収と引き換えに解説書を渡したので、最後に訂正の機会が設けられていた。教育実践の際には、誤った知識の習得が起こらないよう、セッションの中での解説を丁寧に行っていく必要があるだろう。4つめのカテゴリーは、イスラム教についての〈知識不足や曖昧さへの気づき〉であり、文化アシミレーターへの回答を通して、自らの知識の不十分さを認識していた。続いて、「トラブルの原因について、様々な可能性を考えてみた」や、「出身国の文化差や個人の性格だけでなく、宗教に基づいた戒律への配慮も必要だ」といった記述から成る〈柔軟な思考〉、続いて、「文化アシミレーターの事例と類似した場面を見たことや聞いたことがあるので解けた」といった記述から成る〈回答の手応え〉、「トラブルの原因について柔軟な発想で解釈できず、全ての事例において、宗教規範の差異が原因だと思い込んで回答してしまった」といった記述を含む〈思い込み〉が僅かに見られた。

4. 研究2

4. 1 目的

ムスリム文化について、豊富な知識を持つ者からみたときの反応を探る意図から、日常的にムスリムとの交流を持つ、在インドネシア日本人留学生を対象に、研究1で使用したムスリム文化アシミレーターの試作版に回答してもらった。ムスリムが9割以上を占めるインドネシアに留学し、日常的にムスリム学生との関わりを持っている日本人学生の回答の傾向や回答後の反応を探ることで、事前知識の有無が文化アシミレーターの難易度の判断に影響するのか、ムスリムとの交流経験を持つ彼らにとってもこの教材は妥当なものか、彼らにも何らかの学習効果が期待できるのか、といった点を探索的に検討し、ムスリム文化学習の教材作りへの示唆を探る。

4. 2 方法

4. 2. 1 調査協力者と手続き

2015年9月にインドネシアの西ジャワ州にある国立P大学に第一著者が赴き、そこに留学中の日本人学部生10名を対象に、研究1で使用したものと同様のムスリム文化アシミレーターへの回答を求めた。質問紙の配布と回収には、留め置き法を用いた。10名全員の回答に不備が見られなかったた

め、全員分を分析の対象とした。内訳は男性5名、女性5名である。全員が文科系で、インドネシア語を専攻していた。調査時のインドネシア滞在歴は平均5.10 ($SD=2.16$) ヶ月であった。皆ムスリムの友人を持ち、プライベートを含めて日常的に交流しているという。研究の趣旨とプライバシーの確保について説明したうえで調査協力を依頼し、承諾を得た。なお文化アシミレーターを手渡す前に、加えて下記の依頼をした。すなわち、これは日本人学生むけの文化学習教材として開発中で、試作段階のものであると伝え、感想を書く欄に思ったことや気がついたこと、改善点などを思いついたら書いてほしいと頼んだ。回答を終え、質問紙を回収する際に、文化アシミレーターの題材に関する解説書を手渡した。

4. 2. 2 材料

研究1で使用したものと同様の、ムスリム文化アシミレーター（表1）と文化アシミレーターの題材についての解説書を使用した。

4. 2. 3 測定

研究1と同様の手続きで、文化アシミレーターへの回答と評定を求めた。すなわち与えられた選択肢から回答を選択したうえで、その特定の選択肢を選んだ理由を記述してもらった。そして文化アシミレーターの回答後に、文章完成法を用いてムスリムへの印象とムスリムと付き合う上での心構えを尋ねた。そして最後に、文化アシミレーターの難易度や新たに学んだこと、回答をしてみての感想について自由記述を求めた。加えて、改善点及び気づいたことについて尋ねたが、この2点は、研究2のみの依頼である。

4. 2. 4 分析

研究1と同様の方法で分析を行った。文化アシミレーターの各場面における回答の分布を集計した。選択の理由及び全体を通しての感想についての自由記述と、ムスリムへの印象及び付き合いのコツについての記述は、KJ法（川喜田, 1967）を用いて分析した。

4. 3 結果と考察

4. 3. 1 各場面におけるムスリム文化アシミレーターの回答の分布と選択の理由

各場面における回答の分布を表15に、選択の理由を表16に示す。下記の各場面について述べる際の丸数字は選択肢を示している。

表15 各場面におけるムスリム文化アシミレーターの回答の分布

選択肢	場面1		場面2		場面3		場面4		場面5	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
①	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
②	0	(0.0)	<u>10</u>	<u>(100.0)</u>	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
③	<u>10</u>	<u>(100.0)</u>	0	(0.0)	<u>10</u>	<u>(100.0)</u>	0	(0.0)	0	(0.0)
④	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	<u>10</u>	<u>(100.0)</u>	<u>10</u>	<u>(100.0)</u>

太字下線は正確な知識から成る教の教えに基づく文化差への帰属を表現した選択肢を選んだ回答者の人数と割合を示す。

表16 各場面における選択の理由

場面	選択肢	選択の理由	コメント数	割合
場面1 (お菓子)	③	・ムスリムの友達が成分表示を確認しているのを見たことがあるから	4	40.0 %
		・お菓子には豚肉由来の成分が入っているものが多いから	4	40.0 %
		・自分もムスリムの友達にお土産を買うときに気をつけていることだから	2	20.0 %
場面2 (信仰度合いの違い)	②	・自分の友達にもいろんなタイプのムスリムがいるから	4	40.0 %
		・それぞれ戒律を守る基準が異なるから	3	30.0 %
		・教義の解釈は人によって異なるから	3	30.0 %
場面3 (写真)	③	・イスラム教について知識があるので推測できた	6	60.0 %
		・他の可能性もあるが、この選択肢がムスリムにとって最も深刻な理由だったから	3	30.0 %
		・ムスリムの友達が女性専用のSNSアカウントを作っているのを見たから	1	10.0 %
場面4 (断食)	④	・断食習慣があることを知っていたのですぐに推測できた	5	50.0 %
		・他の可能性もあるが、連続で昼食を食べないのは断食月だから	3	30.0 %
		・日本では周りが断食をしないので言いにくかったのかもしれない	2	20.0 %
場面5 (ビンゴゲーム)	④	・賭け事の禁止という教えについて知っていたので推測できた	6	60.0 %
		・ビンゴゲームを賭け事だと捉えるムスリムもいるかもしれないから	2	20.0 %
		・信仰心の強いムスリムなら気にすると思うから	2	20.0 %

【場面1：お菓子】全員が③の宗教規範に関する正しい知識に基づく選択肢を選んでいった。選択の理由を見ると、「ムスリムの食の制限について詳しく知っていた」や「ムスリムの友達が成分を確認しているのを見たことがある」といった記述が見られ、ムスリムについての予備知識と実際の経験がトラブルの原因の帰属に結びついていることがわかる。

【場面2：信仰度合いの違い】全員が②の“人によって戒律の守り方が異なる”という選択肢を選んだ。選択の理由からは、「自分のムスリムの友達にも、戒律との向き合い方や信仰の度合いが異なる、様々なタイプの友達がいるから」といった記述が見られた。実際の経験をもとに、信仰心の個人差に気づき、原因帰属を行っていることがうかがえた。

【場面3：写真】全員が③の宗教規範に関する正しい知識に基づく選択肢を選び、露出の制限にトラブルの原因を帰属していた。選択の理由からは、イスラム教についての予備知識を持ち合わせていたために、事例のトラブルの原因も容易に推測できたことがうかがえた。また、他の選択肢の可能性についても考えてみたうえで、選択肢③が最もムスリムにとって深刻な理由だと判断し、トラブルの原因であろうと推測していた。アシミレーターに回答しながら、ムスリムと日本人との交流における葛藤の原因を柔軟に考えていることがうかがえる。選択理由の記述では、「ムスリムの女性の友達は、女性専用のSNSのアカウントを作り、女性専用のアカウントでは、ヒジャブ（頭にかぶっているスカーフのこと）をかぶっていない写真や記事を投稿したり、プロフィールに設定したりしている」といった、自身の留学経験に基づくエピソードが記述されていた。

【場面4：断食】全員が④の宗教規範に関する正しい知識に基づく選択肢を選んでいった。選択の理由を見ると、ムスリムが年に1度の断食習慣を持つという知識をもとに、それがすれ違いに結びつくことと推測していることがわかる。また、ムスリムが多いインドネシアでは、ノンムスリムの者でもイスラム教の断食習慣について知っているため、すれ違いには発展しないが、ムスリムが比較的に少ない日本では、説明が必要になるだろう、ということへの気づきが記されていた。加えて、課題

場面での登場人物の言動について、「ノンムスリムである日本人には言いにくかったのかもしれない」といった、相手の視点に立って気持ちを察した記述がみられた。

【場面5：ビンゴゲーム】全員が④の宗教規範に関する正しい知識に基づく選択肢を選んでいった。回答の理由を見ると、イスラムの教義である賭け事の禁止について知っていたことが、トラブルの原因を推測する上での鍵となっていることがわかる。基本となる知識を持ち合わせた上で、「ビンゴゲームを賭け事だと捉えるムスリムもいるかもしれない」や「信仰心が強いムスリムなら気にするかもしれない」というように、事例の登場人物の立場になって原因を推測していることがうかがえた。

4. 3. 2 ムスリムの印象に関する記述

ムスリムの印象に関するコメントは全員が3件ずつ書き、合計30件得られた。内容は2つのカテゴリーにまとめられた(表17)。

表17 ムスリムについての印象に関する記述

カテゴリー名	コメント	割合
<u>＜戒律の内容＞</u>	20	66.7 %
・豚肉を食べない	5	
・神を大事にしている	4	
・1日5回の礼拝をする	3	
・六信五行	2	
・ヒジャブをかぶっている	2	
・お酒を飲んではいけない	2	
・断食を楽しんでいる	2	
<u>＜戒律への柔軟な向き合い方＞</u>	10	33.3 %
・戒律に対して柔軟な人たち	4	
・とても寛容に対応する人たち	3	

割合は、総コメント数に対する割合を示す。

一つ目は、豚肉を食すことの禁止や唯一の神を信じること、礼拝習慣等から成る〈戒律の内容〉であった。「六信五行」や「ヒジャブ」といった表現から、回答者が具体的に詳細な知識を持ち合わせていることがわかる。また、「断食を楽しんでいる」という記述は、研究1の日本人学生においては見られなかった記述である。実際の交流経験からくる印象が、背景にあるものと推測される。二つ目は、ムスリムが戒律に対して柔軟であることや、寛容に対応していることを示す〈戒律への柔軟な向き合い方〉である。日本にいる日本人学生は、ムスリムに対して「戒律が多くて大変そうだ」とか、「厳格だ」という印象を持っていたが、在インドネシア日本人留学生は、戒律を守るムスリムに対して「厳しい」という印象よりも、「ムスリムは戒律に対して柔軟に対応している」という印象を持っていた。回答者が、回答後に余白に記述していた意見によれば、インドネシアに留学する前に、イスラム教について初めて学んだ時は信仰に厳しい印象を持っていたが、留学後は、戒律に対して状況や自分の基準に合わせて柔軟に対応し、楽しんで制約を守っている姿に驚

ムスリム文化学習の教材構成に向けた予備調査：

日本人学生を対象とした文化アシミレーター試作版への反応 中野祥子・田中共子

いたという。これは、実体験に基づいて形成された素直な印象を付記したものと思われる。

4. 3. 3 ムスリムとうまくつき合うコツに関する記述

ムスリムとの付き合いのコツに関するコメントは1人平均2.02 ($SD=0.51$)、合計273件得られた。内容は5つのカテゴリーにまとめられた(表18)。

表18 ムスリムとうまくつき合うコツに関する記述

カテゴリー名	コメント数	割合	カテゴリー名	コメント数	割合
<u>＜柔軟な思考＞</u>	10	33.3 %	<u>＜ムスリム文化の理解と尊重＞</u>	6	20.0 %
・問題の原因が想定外のところにもある可能性を考える	4		・相手の宗教や価値観を尊重する	3	
・日本の常識で考えない	3		・イスラム教の知識を持っておいた方が良い	2	
・問題を広い視野で捉える必要がある	2		・相手の宗教を理解することが大事	1	
・ムスリムは一樣だと思わないようにする	1				
<u>＜戒律への配慮＞</u>	8	26.7 %	<u>＜文化一般的交流のコツ＞</u>	4	13.3 %
・相手の信仰度合いやニーズを事前に確認する	3		・問題の原因を遠慮せず聞く	2	
・礼拝をしているときは静かにする	1		・お互いの言い分を確かめる	1	
・礼拝の時間を避けて待ち合わせをする	1		・理由をきめつけない	1	
・左手をなるべく使わないようにする	1				
・相手の宗教的ニーズに配慮する	1		<u>＜宗教にこだわらない接し方＞</u>	2	6.7 %
・お土産をあげるときは原材料に注意する	1		・ムスリムであることを過剰に意識しない	1	
			・ムスリムではなく、一人の人として接する	1	

割合は、総コメント数に対する割合を示す。

一つ目は、「相手の行動の意味やトラブルの原因を考える際に、日本の常識で考えない」や、「トラブルの原因が想定外のところにある可能性を考える」といった記述から成る〈柔軟な思考〉であった。二つ目は、相手の信仰の度合いやニーズを事前に確認するといった記述から成る〈戒律への配慮〉が見いだされた。配慮する内容については、日本にいる日本人学生の記述に比べて、より詳細な情報が記述されていた。例えば、「礼拝をしているときは静かにする」、「待ち合わせの時間を決めるときは礼拝の時間を避ける」や、「左手をなるべく使わないようにする」といったものである。三つ目は、相手の宗教や価値観を理解することや、尊重することを勧める〈ムスリム文化の理解と尊重〉、四つ目は、「トラブルの原因を遠慮せず聞く」や「互いの言い分を確かめる」といった〈文化一般的交流のコツ〉がみられ、最後に、「ムスリムであることを意識しすぎない」といった記述から成る〈宗教にこだわらない接し方〉が見いだされた。

4. 3. 4 ムスリム文化アシミレーターを回答した感想

文化アシミレーターを回答した感想の記述を分析した結果、コメントは1人平均3.70 ($SD=0.64$)、合計37件得られ、4つのカテゴリーにまとめられた(表19)。

最多は、回答者自身が留学中にムスリムと関わった経験を振り返って書いた、「自分がムスリムと関わるうえで気をつけていることが題材になっていた」や、「自身の体験を振り返ると理解できる問題であった」等の記述から成る〈留学経験との結びつき〉であった。留学中に体験した困難や文化差に関するエピソードを紹介し、他の題材への活用を提案する記述も見られた。続いて、「場面ごとのエピソードの解釈に使われる宗教的知識は、イスラム圏に留学する前に身につけておくと便利だ」、「文化アシミレーターはイスラム教について勉強するためのおもしろい方法だ」や、「イスラム圏に留学する前の知識教育として役に立ちそう」といった記述から成る〈活用法への示

表19 ムスリム文化アシミレーターを回答した感想

カテゴリー名	コメント数	割合
<u>＜留学経験との結びつき＞</u>	15	40.5 %
・自分が気をつけていることが題材になっていた	4	
・留学生生活を振り返ると解ける問題だった	4	
・クイズにしてほしい話題が他にもたくさんある	3	
・留学経験が身になっていることが実感できた	2	
・留学前後に宗教について勉強していたので答えられて嬉しかった	2	
<u>＜活用法への示唆＞</u>	10	27.0 %
・宗教を勉強する方法としておもしろい	4	
・イスラム圏に留学する前の知識教育に役立ちそう	3	
・イスラム教について考える良い機会になる	3	
<u>＜在日ムスリムならではの困難への気づき＞</u>	7	19.0 %
・日本ではムスリムに対する理解が乏しいからトラブルに発展するのだと思った	4	
・インドネシアでは問題にならない差異が日本ではすれ違いを生むと初めて知った	3	
<u>＜文化一般的な交流の心得＞</u>	5	13.5 %
・相手をムスリムとして意識しすぎないことも大事	2	
・積極的に留学生と交流の機会を持つことが大事	2	
・相手の気持ちや考えを理解していくことが一番大事	1	

割合は、総コメント数に対する割合を示す。

唆」が抽出された。三つ目は、〈在日ムスリムならではの困難への気づき〉であった。回答者の記述によれば、留学経験を通してムスリム文化と日本文化の差異については既知であるため、トラブルの原因は容易に推測できるが、ムスリムが9割を超えるインドネシアでは、文化的差異から文化アシミレーターの事例のようなトラブルに発展することはないという。在インドネシア日本人留学生は、事例の困難はノンムスリムの国である日本だからこそ、日本人がイスラム教についての知識や理解が薄いゆえに引き起こされるトラブルであると認識していた。最後のカテゴリーは、相手をムスリムだと意識しすぎないことや、積極的に交流の機会をもつことの必要性を示す記述から成る、〈文化一般的な交流の心得〉であった。在インドネシア日本人学生の回答後の感想には、教示文へのコメントがみられた。

5. 総合考察

本研究では、試作されたムスリム文化アシミレーターを呈示して、ムスリム文化に比較的馴染みの薄い日本にいる日本人学生と、日常的にムスリムとの関わりを持ち、ムスリム文化に馴染みがあると考えられる在インドネシア日本人留学生に、その回答を求めた。そして、両者の反応から、アシミレーターの教示文や選択肢がムスリム文化の学習と原因帰属の柔軟化を狙う教材として適切なものかどうか、試作した文化アシミレーターから何が学べるのか、検討を試みた。研究1で対象とした日本の大学に通う日本人学生は9割以上が、ムスリムとの交流経験をもたない者であった。

最も交流している者でも、共に講義を受けたり、挨拶をしたりする程度の関わりしか持つてはいなかった。研究1では、ムスリムが多いとはいえない社会に暮らす、ムスリムに馴染みの薄い集団の反応を探ったことになる。一方で、研究2の日本人留学生は、ムスリムの多数住んでいる社会に暮らし、彼らとの接触が日常化している集団といえる。

まず、回答の分布と選択の理由から、文化アシミレーター試作版で使用した選択肢の妥当性について考察する。回答の分布は、日本にいる日本人学生と在インドネシア日本人留学生で違いが見られた。日本にいる日本人学生の文化アシミレーターの回答の分布は、散在していた。具体的には、半数以上が正しい知識をもとにした宗教規範の差への帰属を表す選択肢を選び、残りの3割から4割の回答者が、状況やパーソナリティー、出身国の文化的特徴に原因を帰属させる選択肢を選んでいった。選択の理由をみると、「どの選択肢の可能性もあるが、宗教的なことが原因だと思った」、「宗教についてはよく知らないが、なんとなく、そういう戒律がありそうだ」という記述が見られた。これらの反応から、トラブルの原因を考える際、宗教に基づく文化的差異への帰属には想定が及びにくく、たとえ想定できたとしても、教義に基づいた価値観や行動のどの部分が日本文化との差異を生み、トラブルに発展しているのかという具体的な推測には達しにくいことが示唆された。また、回答の分布にある程度のばらつきがみられたことと、誰にも選ばれなかった選択肢がなかったことから、4つの選択肢は原因帰属を考える際の解釈の可能性を示す項目として、有用なものであると考えられよう。

次に、文化アシミレーターの教示文について考察する。在インドネシア日本人学生の回答後の感想には、教示文についてのコメントがみられた。例えば、自身のムスリムとの交流経験とアシミレーターの題材が一致していたという発見や、エピソードから学ぶ宗教的知識は、イスラム圏への留学前の準備教育として活用できるといった提案が述べられていた。このことは、今回のムスリム文化アシミレーターの題材として選んだエピソードや教示文の表現が、ムスリムとの交流を想定して、リアリティーを持って学べるものとして使えるという見方を支持するものといえる。なお、在インドネシア日本人学生は文化アシミレーターの題材を読んで、文化差に気づくものの、それが日本では実際にトラブルやすれ違いに発展する可能性がある、ということまでは想定できていなかった。もともと本研究で試したムスリム文化アシミレーターは、“日本にいるムスリム”と日本人学生の交流における文化差に基づくトラブルを取り上げた、ホストとしての日本人学生むけの文化学習教材として作られていた。しかし彼らは自分たちの文脈の中で回答したために、葛藤の想定が組み込まれなかったものと思われる。

続いて、文化アシミレーターの難易度について考察する。ムスリムに比較的馴染みの薄い日本にいる日本人学生と、日常的にムスリムと関わっている在インドネシア日本人留学生では、捉え方が異なっていた。前者からは、「難しかった」、「全くわからない」、「なんとなく予測できるが明確にはわからない」、「消去法で解いた」、「わからなかったので勘で答えた」といった記述が見

られ、本研究で使用したムスリム文化アシミレーターは彼らにとって、比較的難しいものとして捉えられていたことがわかる。一方で、後者の文化アシミレーターの回答の分布を見ると、全員が同じ選択肢を選んでおり、宗教に基づく文化差がトラブルの原因になっているとの察しがついていた。選択の理由として、「留学生生活を振り返れば解けた」や「留学前に習ったことがあった」、「難しくなかった」といった記述が見られた。留学準備のための学習や留学後のムスリムとの交流を通して、ムスリム文化についての知識を習得していた彼らにとっては、今回の文化アシミレーターの題材についてトラブルの原因を推測することは難しいものではないことがわかる。両者の反応から、本研究で試作した文化アシミレーターは、ムスリム文化を学習する上での初期の段階に位置され、ムスリム文化に馴染みの薄い回答者むきの教材として適していると考えることができよう。

加えて、回答後の感想から、文化アシミレーターへの回答を通して得られる可能性のある教育的効果について考察する。両者とも、内容は異なるが、回答を通じて肯定的な反応と気づきが得られていることが明らかになった。まず日本国内の日本人学生は、以下のような認識を得ていた。1) ムスリム文化についての知識不足や曖昧さへの気づき、2) ムスリム文化についての知識の獲得と理解の促進、3) 異文化交流時のトラブルの原因を考える際に、思考を柔軟にすることの大切さへの気づき、4) ムスリムと実際に交流してみたいという意欲の芽生え、である。我々が、ムスリム文化アシミレーターの学習効果として想定していた、ムスリムの文化的知識の習得及び、トラブル時の原因帰属の柔軟化を示唆する記述に加えて、ムスリムとの交流意欲の芽生えという副次的な効果への示唆も得られた。一方で、比較的ムスリムとの交流経験がある在インドネシア日本人学生は、本研究で使用したムスリム文化アシミレーターを難しいものではないと評価しつつ、回答後の感想の記述では肯定的なコメントを記していた。例えば、「改めてムスリムについて考える機会となった」や「留学の成果が実感できて嬉しい」といった記述があり、知識の確認や留学経験を振り返る契機として捉えられていることがわかる。

最後に、本研究で使用したムスリム文化アシミレーターの、実施方法への留意点と教材の改善点について得られた示唆を述べる。在日及び在インドネシアの日本人学生、両者のイスラム教への印象の記述における、戒律についての理解の差は、興味深いものであった。日本国内の日本人学生は、彼らがムスリムの持つ戒律の内容や、その多さに注目していた。そして、複数に渡る戒律の内容は、ムスリムに対しての異質さの認識や「まじめ」「忠実」「厳格」といったパーソナリティーの評価につながっているようであった。これは、この教材の利用を通じてムスリムの戒律についての知識に触れたために生じた反応と思われる。一方、在インドネシア日本人学生は、ムスリムに関する印象の記述において、より具体的な戒律の内容を挙げていた。また日本の学生とは対照的に、戒律を守る行為をムスリムが「楽しんでいる」といったポジティブな印象を持ち、「柔軟」や「寛容」という捉え方もしていた。これは日常的にムスリムと接することで抱いた印象が、反映された

ものと思われる。両者の違いは、行為の原因帰属を考える際の、文化要素の位置づけを反映しているといえよう。

今回は、試作された設問への反応確認のために回答を依頼しており、文化学習としての使い方は限定的であった。本研究の手続きでは、質問紙の回収と引き換えに、文化アシミレーターの題材に関する解説書を渡している。そのため、回答者は解説書を読む前に、文化アシミレーターの回答とムスリムへの印象及び感想を書いたことになる。解説書には、文化アシミレーターの題材に関連するイスラム教の知識や、在日ムスリムのインタビューで得られた実際の声をもとに、彼らの生活について紹介したりしている。加えて、全てのムスリム留学生が教示文のような事柄で困っているとは限らず、戒律への向き合い方や困難を感じる事柄は人によって異なること、宗教規範の差異に基づいた選択肢が正解というわけではなく、どの選択肢の可能性もあるということを記している。その解説文を読めばまた回答者の印象や解釈が変わる可能性があるが、今回は試作課題への反応を測定する意図から、感想を求めるタイミングは解説を読む前に設定されていた。つまり、いったん解いてはみたが解説を得ていないという時点の感想なので、誤った知識を新発見として捉えたり、どの選択肢の解釈も成り立ちうることや人によって対応が異なる可能性があることに思い至っていなかったりする記述もみられる。ムスリムが日本で生活することの困難さや戒律の多さに注目した記述が多くなったことには、こうした測定タイミングの影響を受けているものと考えられる。

実際に教育的意図を持って、教材として文化アシミレーターを使って異文化間教育を行う場合には、討論や解説を組み込んで異文化間教育として成り立つように構成されることになる。同じ素材でも使い方が異なり、測定も教育実践研究のパラダイムを念頭に置いて行われる。すなわち、文化アシミレーターの回答後にファシリテーターが十分に解説を行う時間を設け、そのうえで学習経験に関する反応を尋ねる手続きになろう。設問に触れて回答に思いを巡らすところまでだと、日本でしばしば抱かれているムスリムやイスラム教についての固定的なイメージを強める可能性もあるので、解説は丁寧に行われる必要がある。その際、ムスリムとの接触が日常化している在インドネシア日本人の捉え方も紹介して、文化差の捉え方を柔軟化することに役立てるとよいだろう。

文化アシミレーターは、偏見を生んだり、文化の強制になったりするといった誤解をもたれることもあり、それらを防ぐためにも、解説を丁寧に行う時間を大事に考え、学習プログラムの中に位置づけて行くことが望ましい。異文化間教育の議論としては、その後でムスリムについてどのような印象を形成し、全体として何を学ぶのが議論される必要がある。文化アシミレーターを用いた教育では、各題材について選択肢を選んだ後、回答者たちで、自分が選んだ選択肢の解釈について紹介し合う時間を設けるという、グループディスカッションを取り入れた方法も学習効果があると勧められている（大橋他, 1992）。今後の応用に至る課題として、文化アシミレーターへの回答と解釈を話し合うグループディスカッションの方法や、解説の仕方の検討が望まれる。

謝辞 本研究の一部は石川康平氏の平成26年度岡山大学文学部における卒業研究のデータを再構成したものです。また、本研究の一部は科学研究費補助金（15H0345617）の助成を受けました。

引用文献

Fiedler, F. E., Mitchell, T. & Triandis, H.C.(1971). The culture assimilator: An approach to cross-cultural training. *Journal of Applied Psychology*, **55**(2), 95-102.

川喜田二郎（1967）. 発想法—創造性開発のために 中公新書

岸田由美（2011）. ムスリム留学生の宗教的ニーズへの対応：現状と課題 留学生交流・指導研究, **13**, 35-43.

三角友子（1997）.日本語回答者に向けたビデオ・カルチャー・アシミレーターの作成 異文化コミュニケーション, **10**, 75-95.

文部科学省中央教育審議会（2008）. 留学生30万人計画の骨子とりまとめの考え方に基づく具体的方策の検討文部科学省 2008年7月8日

〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1249702.htm〉

（2015年9月20日）

Nakano,S., Okunishi,Y. & Tanaka,T. (2015). Interpersonal Behavioral Difficulties of Muslim Students in Japan During Intercultural Contact Situations. in Rogelia,P. (ed.) *Proceeding of the 10th Asian Association of Social Psychology Biennial Conference ‘Enhancing Quality of Life through Community Integrity and Cultural Diversity: Promoting Indigenous, Social and Cultural Psychology’*, (Yogyakarta:Gadjah Mada University Press), 154-170.

中野祥子・田中共子（2015）. 日本人学生を対象としたムスリム文化アシミレーターを用いた異文化間教育の試み 留学生教育, **20**, 83-92.

日本学生支援機構（2015）. 平成27年度外国人留学生在籍状況調査結果

http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data14.html （2015年6月15日 閲覧）

大橋敏子・近藤祐一・秦喜美恵・堀江学・横田雅弘（1992）. 外国人留学生とのコミュニケーション・ハンドブック—トラブルから学ぶ 異文化理解— アルク